

生物

佐野高



人工産卵地造りに挑戦

2016年からトウキョウサンショウウオの生息状況調査を続け、保全活動にも取り組んでいます。

研究タイトルは「栃木県産有尾目の保全に向けてⅡ」で、生態、遺伝子、環境の三つの視点から研究を進めました。幼生の成長や変態・上陸の時期についての調査および実験と新たに発見した産卵地やサンプル未採取地でのDNA採取および解析をしました。解析は宇都宮大の協力を得てDNAを抽出・増幅し、遺伝的多様性の解明と移動経路の考察を行いました。さらに、かつては良好な産卵地であった場所の復元を目指し、人工産卵地を造り、産卵数と環境の変化を調査しました。人工産卵地は、ため池と水路も造り大変でしたが、完成形を想像しながらの作業は楽しくもありました。

前年に比べ産卵数が増加し、保全活動が一定の成果を上げたと考えられることは、とてもうれしいです。総文祭を通してトウキョウサンショウウオを知ってもらい、いままでの活動がしっかり伝わる発表をしたいです。

(3年部長 戸室琴乃)